

## 制作・問い合わせ先

埼玉県高校図書館フェスティバル実行委員会  
HP : <http://shelf2011.net>  
Twitter : @shelf\_20110219  
Facebook : <https://www.facebook.com/shelf2011/>

制作協力 (パンフレット印刷) 社会福祉法人 埼玉福祉会

ご紹介

## やさしく読めるLLブックシリーズ



埼玉福祉会では、文章を読むことが苦手で読みやすい本、「LLブック」を発行しています。知的障がいや学習障がいがあっても読みやすいよう表現を工夫し、様々なテーマをご用意しています。

サイフクのLLブック 既刊とお買いものはコチラ

<http://www.saifuku.com/shop/llbook/index.html>



詳細は、内側の面をご覧ください。

9位 フロートキヤスト 渡かえな / KADOKAWA

9位 54字の物語 氏田雄介・作、佐藤おどり・絵 / PHP 研究所

8位 青少年のための小説入門 久保寺健彦 / 集英社

7位 風に恋う 額賀清 / 文藝春秋

6位 AI vs. 教科書が読めない子どもたち 新井紀子 / 東洋経済新報社

5位 愛なき世界 三浦しん / 中央公論新社

4位 黒板アト甲子園作品集 日学株式会社 / 日東書院本社

3位 みえるとか みえないとか ヨシケン・ス・タ・ク、伊藤亜紗・そうたん / アリス館

2位 そして、ハトは渡された 瀬尾まいこ / 文藝春秋

1位 リアルサス古生物図鑑 上屋健 / 技術評論社

## イチオシ本 2018

埼玉県の高校図書館司書が選んだ

# 埼玉県の 高校図書館 司書が選んだ イチオシ本 2018年版

★ 2019年2月発表! ★

Take Free

## ★イチオシ本について★

埼玉県の高校図書館司書は専任・専門・正規の形で学校図書館に配属され、高校生に魅力的な本を紹介するために、日々、図書館活動を行っています。

過去1年間に出版された本の中から、司書として高校生に読んでほしい本を投票するこの企画も、今年で9年目となりました。若手司書が増えてきている埼玉ならではの幅広いラインナップをお楽しみください。

今年もパブリックに、著者や編集者の方からコメントを寄せていただきました。また、多くの書店・図書館にイチオシ本フェアを実施していただいています。

この場を借りて御礼申し上げます。

★★★★★ まだまだあります! イチオシ本 ★★★★★  
借しくもベスト10には入りませんでした、司書イチオシの本たちです。

多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ。(Jam、名越康文 / サンクチュアリ出版)

◆人間関係のしがらみにSNSが拍車をかけて、いよいよ苦しい現代の若者たち。彼らにとっての救いになりたい、という著者のひたむきさを感じます。◆SNS 発、日常で起こる人間関係の悩みを描いた4コマ漫画。にゃんこのキャラクターで描かれたイラストの可愛さもあるが、何と言ってもその内容がとても共感できる。人から言われた言葉も、自分に響かなければただの言葉。でも、この本が伝えてくる言葉は、どれも分かりやすく、すんと胸に落ちてくるようなものばかり。流し読みからでもいいので、まずは一度見てみてほしい。きっと自分に響く言葉があるはず。◆悩んだときに読むと、こう考えればいんだと思える本です。心がスッキリしますよ。

マリー・アントワネットの日記 Rose/Bleu (吉川トリコ / 新潮社)

◆「道化がすぎる」マリーに共感! うんうん、ついやっちゃうよね★だってみんなをよこばせたいもん。ふわふわでパステルカラーの綿菓子のようにかわいいうマリーが愛おすぎる! ◆「トワネット」のおしゃべりに付き合っているうちに、世界史の教科書を読み返して確かめたくくなります。◆心をうつラストシーン。

極夜行 (角幡唯介 / 文藝春秋)

◆今年のファンクション大賞を受賞した作品です。「空白の五マイル」からの大ファンです。新作を楽しみにしていましたが、期待通りの力作でした。◆極夜という暗闇に閉ざされた極寒の世界へと探検に出た著者。その過酷な行程がユーモアを交えながら語られています。とにかくこの筆者は文章が上手! 冒頭からぐいぐいと引き込まれます。死の危険さもある探検を、こんなにおもしろく生き生きと語れるなんてすごい。

囁みあわない会話と、ある過去について (辻村深月 / 講談社)

◆怒りのもつ負のパワーはすごい。読後、思わず我が身を振り返ることでしよう。◆しまい込んでいた心のざらついた部分を撫でられる感じ。◆誰も人生のどこかで体験するであろう理不尽な思い、怒り、報われなさを表現してくれた本です。

いつかすべてが君の力になる (梶裕貴 / 河出書房新社)

◆今あることを全力でやりきる大切さを教えてください。◆声優の著者が自らの経験を元に、夢を叶えたいと望む青少年にエールを送る一冊。著者に惹かれた人も、タイトルに惹かれた人も、きっと読んで良かったと思えるはず。◆彼の出身高校の司書として、高校時代に演劇部の一員としてがんばってる彼の姿を見ていたので、当時の想いとかが綴ってあるこの本には、個人的にとっても思い入れがあります。

生理ちゃん (小山健 / KADOKAWA)

◆男子女子で相互に理解するのにつけてです。同時に女性でも生理痛の症状、重さが個人によって違うことも伝えていて、生理による悩み全般を互いに理解するのに役立つマンガです。◆月に一度やってくるキモカワな生理ちゃん、面白くて役に立つシュールなマンガ。みんなの生活の横に生理ちゃんは行んでいる!!! 読めば自分や友人、家族の生理ちゃんたちを思いやれるような本です。男子も是非。◆「生理=月経」を擬人化し、女性のもとに毎月おとずれる「生理ちゃん」のドラマを描いた今までにないコミック。男女とも手に取りやすい絵柄でおすすみやすい。オープンに話せるきっかけにも。

本のエンドロール (安藤祐介 / 講談社)

◆印刷会社を舞台にしたお仕事小説。本が書店に並ぶまでには、こんなに多くの隠されたドラマが存在していたんです。本の後ろの「奥付」欄、これからはきっとスルーできなくなるはず。

地球星人 (村田沙耶香 / 新潮社)

◆読み始めたら、途中で止められなくなるような本です。◆誰にでも勧められる本ではありませんが、普通って何? を突き詰めるとこんな形になるのかと衝撃を受ける作品です。インパクトが強すぎて、これを今年のベスト1にせざるを得ない。

彼女は頭が悪いから (姫野カオルコ / 文藝春秋)

◆ショッキングな内容であるが、どの当事者にならないためにも読んで欲しい。個々の人間の尊重について考えて欲しい。

おカネの教室 (高井浩章 / インプレス)

◆お金と経済のしくみが楽しく学べる青春小説です。小説を読んでいくうちに、お金との付き合い方が自然と理解できる内容になっています。社会に出る前にぜひ読んでほしい一冊です。◆経済学の入門書に良いかも。

学校に行きたくない君へ (全国不登校新聞社 / ポプラ社)

◆インタビューの本です。すばらしいのは、聞き手と話し手がとても誠実だということ。それぞれの人が抱える生きづらさのようなものは、こういう本を読んで解決するとは思いません。それでも、きっと心が軽くなる、ほんのすこしでも心に自由を与えてくれる一冊だと思います。◆樹木希林さんのコメントが染みしました。

天才はあきらめた (山里亮太 / 朝日新聞出版)

◆この本を読んで、山ちゃんを天才だと思わない人はきっといません。彼は努力の天才です。

俺、つしま (おぶのきょうだい / 小学館)

◆ふてぶてい猫がたくましくて、とても良い。◆猫好きでない人でも読んでみて。◆リアルな猫の描写に癒やされます。

犬房女子 (藤崎童子 / 大月書店)

◆身近なペットの命、就職・働くということについて、自分の考えを伝えるむずかしさ、たくさんのことを学ばせてくれます。

日本が売られる (堤未果 / 幻冬舎)

◆ゴーンショックのように、日本が世界の餌食にならないためにどうしたらいいのか。

わけあって絶滅しました。(今泉忠明、丸山貴史、サトウマサリ、ウエタケヨージ / ダイヤモンド社)

◆地球の滅亡や人類の絶滅も想定内になってしまった? 今、先に絶滅した先輩たちから学ぶことがあるはず。◆絶滅した動物たちが、自分たちが絶滅した理由をユルユルかつわかりやすく説明してくれていてエッセイを読んでいる気分になる。◆生き残るのは、大変なことなんだと思いました。

夏空白花 (須賀しのぶ / ポプラ社)

◆終戦後、高校野球復活のため奔走する記者の物語。「甲子園」という単語に高揚感を感じる人は是非。きっと心にアツいものが込み上げてくるはず。◆戦後の甲子園復活に尽力した人々の物語です。甲子園が生徒たちにとって大きな夢であること、そして大きな夢であるからこそ起こるひずみ、その複雑さを元球児であった主人公の視点で描かれていたのが印象的でした。終戦直後が舞台になっていますが、現在の高校野球や部活動の抱えている問題にも通じていると感じます。手放して楽しく読めるテーマではないかもしれませんが、生徒が自分の身近に寄せて考えながら読めるのではと思いました。

十五の夏 上・下 (佐藤優 / 幻冬舎)

◆若い時期の冒険は生涯の糧となるのだと思います

彼方の友へ (伊吹有喜 / 実業之日本社)

◆実在した少女雑誌「少女の友」をモデルに描かれた作品。戦中の東京で雑誌作りに情熱を燃やした波津子を中心とした登場人物が魅力的。前向きな気持ちになる一冊。

「女子」という呪い (雨宮処凛 / 集英社クリエイティブ)

◆社会に出てあるある、と思う場面が多々。◆女子であることのモヤモヤがちょっと晴れる。

ゆつくりおやすみ、樹の下で (高橋源一郎 / 朝日新聞出版)

◆児童書として出版された本ですが、高校生にもぜひ読んでほしい。

産声のない天使たち (深澤友紀 / 朝日新聞出版)

◆4回転した本。妊娠すれば誰でも元気な赤ちゃんを産むことができると多くの人が思い込んでいる……。

キミのお金はどこに消えるのか (井上純一 / KADOKAWA)

◆経済の解説マンガというだけでなく、著者の主張や実感がこもっている点がおススメ。

宇宙兄弟「完璧なリーダー」は、もういない。(長尾彰 / 学研プラス)

◆部長・委員長・生徒会長等の「リーダー」になった、あるいはなりたいけれどあと一歩踏み出せない生徒に是非読んでほしい。「リーダー=優秀」という考えと現実の自分との狭間で悩んでいる人の助けになる一冊。

「国境なき医師団」を見に行こう (いとうせいこう / 講談社)

◆いとうせいこうさん、取材に行ってきたありがとうございます。MSFスタッフのひとりひとりに、感謝を伝えてくれてありがとうございます。世界の善意が決して無駄ではないと信じさせてくれる本です。

不死身の特攻兵 (鴻上尚史 / 講談社)

◆死から逃れる術が無いはずの特攻兵が、生きて戻ってくるというエピソードのインパクトもありますが、当事者ではない者によって言説が作られてしまっただけで真実が隠されてしまう問題や、日本型組織の異様さといったことを知ることができる一冊だと思います。

対岸の家事 (朱野扁子 / 講談社)

◆専業主婦も育児休暇取得中のパパ友も大変だなあと、当たり前だと思えることが立場が変わるとこんなに違うんだとすごく共感しました。卒業したらどんな人生を選択しますか?

青い春を覚えて (武田綾乃 / 講談社)

◆大人にはわからない、高校生たちだけが抱える葛藤。ひと足先に乗れ越えてゆく、主人公たちの姿がまぶしい。

放課後ひとり同盟 (小嶋陽太郎 / 集英社)

◆悩める10代が主人公の連作短編集です。「感動!」でも「泣ける!」でもなく、「ライラ」も「もやもや」の青春物語ですが、読後感の良さはピカイチでした!

泥 (レイス・サッカー、千葉茂樹 / 小学館)

◆短くて読み始めたら一気に読めるお話です。著者は「穴」を書いたレイス・サッカーです。

下町ロケット ヤタガラス (池井戸潤 / 小学館)

◆ワクワクします。TV化されているので情景がよくわかる。

あなたはここで、息ができるの? (竹宮ゆゆこ / 新潮社)

◆疾走感あふれる青春恋愛小説! ぜひとも高校生に読んでほしい一冊です。4歳の僕はこうしてアッシュヴィッツから生還した(マイケル・ボーン・スタイン、デビー・ボーン・スタイン・ホルンスタート、森内薫 / NHK 出版)

◆題名通りの実話。子どもの視点で書かれたホロコーストの記録を多くの人に読んでほしい。

ファーストラヴ (島本理生 / 文藝春秋)

◆賞を受賞する書籍の中で初めて面白いと思ったから。

異なり記念日 (齋藤陽道 / 医学書院)

◆ろう者の夫婦と聞こえる子ども。「手話」か「日本語」かの二択じゃなく、大事なのは「伝わる」ということ。

ここで紹介しきれなかったイチオシ本とランキングの詳細は  
埼玉県高校図書館フェスティバルのHPに掲載しています。  
<http://shelf2011.net>